

中井博幸の市議会報告



令和元年12月議会（第38号）

児童・生徒の熱中症対策の現状

昨年、箕面市は熱中症対策として、WBGT値28度以上になれば屋外の活動を制限する措置に踏み切りました。この決定に対し、PTA等から異論が出され、議会でも一部議員が強く見直しを求めています。先日行われた議会による地域別意見交換会でも中心議題となるほど児童・生徒の保護者の皆様の強

い関心事となっていると思います。そこで、今回は実情を知っていただくために議会でのやり取りを書きたいと思います。

WBGT値とは： 熱中症を予防するためにアメリカで考案された指数で、気温だけでなく湿度や日射等も含まれたもの



決定のプロセスが不明朗だ。子供達に大きな影響があるのだからもっと皆の意見を聞くべきではなかったのか。

他県で学校行事中に児童が死亡した事案や、箕面市内で救急搬送が相次いだことから、熱中症対策を急ぐ必要があったので、教育委員会議を開催し、全会一致で決まった。

何故、教育委員会が一律WBGT28度に決定したのか。近隣市では28度からは注意を促し、31度になれば運動等の活動禁止としているところもある。

28度を超えると熱中症になる子供たちが急激に増える。28度から31度の間に野外活動の是非の判断が難しく、判断に差が出る可能性が有る。学校現場任せではばらつきが生じ、判断した先生や、校長の責任が問われかねないことから教育委員会が全市一律の基準を決めた。

子供たちには、今後の温暖化に備え、暑さに負けない体作りや基礎体力をつける必要がある。夏季の野外活動を制限すべきでない。

課業中にWBGT28度を超えるのは、夏休みの前後3週間程度だ。この間、体育の授業や休み時間も冷房の効いた体育館を使用している。運動会の開催時期をずらしたり、体育の授業内容を見直し運動不足にならないよう注意する。



夏季に運動部の活動を制限することで、子供たちが不利益を被っている。早朝練習は家族や教師等指導者への負担が大きいので改善を求める。

暑さ対策のため、早朝より学校開放している。決められた時間内で指導方法を見直すことで成果を上げている事例もある。今後も可能な限りサポート体制を構築していく

今後予想される地球温暖化に向け暑さに打ち勝つ体づくりを求める意見も当然だと思いますが、学校の授業というのはすべての子供たちに半ば強制的に行われることから、すべての子供たちが事故無く参加できる環境を作ることが求められている教育現場の担当者の意見



も当然です。責任を負わされる側が『もしも』を想定し、規制をかけるのも妥当だと思います。今後も暑さ対策として、運動会の開催時期をずらしたように夏季の体育授業の時期を見直すことや、体育の授業内容を見直すことに併せ様々な夏季用高機能体操服や暑さ対策グッズの使用を検討する必要があると思います。

箕面市が直面する課題は市立病院の経営

全国的に見ても公立病院の経営状況は厳しく、殆どの公立病院が赤字で、一般会計などからの繰入で運営されています。箕面市立病院は下表のように平成21年度から経営改革に取り組み一旦は繰入を必要としないほど回復しましたが、その後国の医療費抑制政策による入院費などの医療費の見直しで収入が減りました。箕面市が予定通り28年度から繰入金をなくしたことで30年度の累積赤字額は105億円にまで膨れました。資金不足を補うために競艇事業局から平成30年度は7億円、令和元年度は6億円を借入れています。今は、市立病院は資本金などの資産が負債を上回っていることから、すぐに経営不全に陥ることは有りませんが、早急に何らかの手立てを講じる必要があります。仮に、



単年度赤字分を一般会計から繰入れれば、一般会計の実質収支が大きく下がることから、市が行っている事業全体の見直し作業が必要になります。市立病院の黒字化を目指すのであれば、民間病院のように不採算の診療科目を止め、効率化を図る必要があります。私は、重篤な病気を治療する急性期病院である箕面・池田・豊中の各市立病院が近距離圏内にあることから、救急医療や主要診療科目は別として、それぞれの病院が診療科目を絞り込み、3つの病院が一つの総合病院として経営するよう見直すべきだと思います。今後、病院に対し多額の税金の投入を行ってでも診療科目を守るのか、診療科目の減少で多少不便でも病院の自立した経営を求めるのかといった議論を重ねる必要があります。

病院の収支変化。
赤の棒グラフが繰入前の赤字額。青の棒グラフが総繰入額。黒の折れ線グラフが決算額



総繰入額は経常繰入額と臨時繰入額が合算されています。赤字額が軽減されるのは経常繰入額のみです。

12月議会での一般質問は『公務員改革と事業の効率化』について

平成26年に、箕面市は頑張った職員が報われるために『人事・給与構造改革』に踏み切りました。これはそれまでの年功序列型の給与体系からの脱却という全国でも例のないものです。年功序列型の給与体系の弊害は、頑張って仕事をしなくても、年齢とともに給与が上がり、それなりの役職に就けることでした。私は、頑張っている職員とそうでない職員との給与や昇進に



差をつけるという世間では当たり前の改革だと思います。しかし、今議会でも、一部議員から職員間の競争を煽るとの理由で見直しの声が上がっていることから、改革が後戻りや、骨抜きにされないための方策をただしました。併せて、市民サービスの向上と人件費の削減を両立させるためにRPAソフトを使うことで事務作業や職員の配置を見直すべきだと訴えました

箕面市政の相談は 箕面市議会議員 **中井博幸** にご相談ください

住所 箕面市桜4-7-28 電話 721-3230 FAX 722-8582